4月度の観察記録

カテゴリ ： 2017年

_MD_POSTEDON投稿者： Zz.admin 掲載日: 2017-4-9

2017年4月度の観察記録です

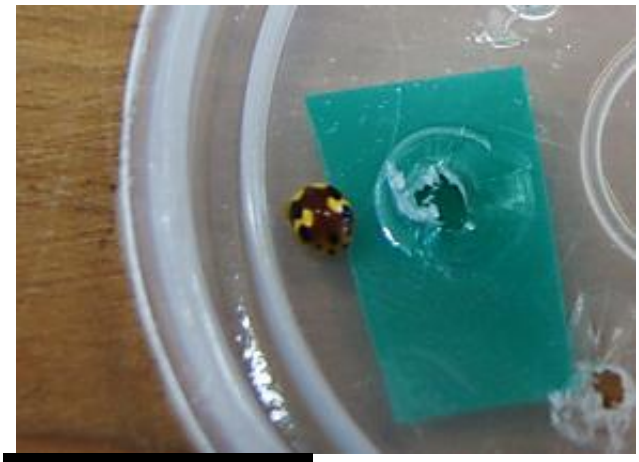
Untitled Page var gaJsHost = (("https:" == document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www."); document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js' type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker = _gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();

時々小雨の降る曇り空から，観察会終了時には陽も差してきました．気温は高く，上着を脱ぐほどの暖かい春の観察会になりました．新池には，頭から嘴までの白い帯が鮮やかなオオバン（大鷭，クイナ科）が６羽，カイツブリ（鳰，カイツブリ科）が２羽，ヒドリガモ（緋鳥鴨，カモ科）が６羽及びコガモ（小鴨，カモ科）が２羽いました．新池周辺の**ソメイヨシノ**（染井吉野，バラ科）だけでなく，白い花の**オオシマザクラ**（大島桜，バラ科）および濃いピンク色の**山桜**やしだれ桜も満開でした．

[redacted]

ソメイヨシノ オオシマザクラ ヤマザクラ　　里山の家の中で，まず，先月の報告を見ました．クヌギカメムシ（椚亀虫，カメムシ科）の卵の写真がよくできていて，気管も見えるという感想がでました．三齢まで卵塊のゼリーを食べて成長するという説明がありました．外から，あまりうまくないウグイスの鳴き声が聞こえました．報告の中の写真で，葉の裏についたテントウムシの卵は，ナナホシテントウ（七星天道，テントウムシ科）の卵で，ナミテントウ（並天道，テントウムシ科）は４月に入ってから，樹上などに産卵するそうです．ウシガエル（牛蛙，アカガエル科）が話題になり，ウシガエルは３月から９月まで産卵し，１匹で１万個程の卵を産むという説明がありました．平和公園の小さな池を３日間かけて池干しして，２０００匹以上のウシガエルのオタマジャクシを駆除したという報告がありました．コガタルリハムシ（小型瑠璃葉虫，ハムシ科）の卵は黄色から黒っぽくなって，黒い幼虫が孵化するそうです．東山植物園で２匹のヒキガエル（蟾蜍，ヒキガエル科）の鳴き声が森の中でしたという報告がありました．ヒキガエルは何とか名古屋市内でまだ生き残っているようです．

ヤママユ（山繭，ヤママユガ科）**の繭の抜け殻**と卵を持ってきた参加者がいました．幼虫は，クヌギ（椚，ブナ科）を食べるという説明でした．クヌギの小枝を示し，衣食住に使われるという説明がありました．奈良公園のカラフルで小さな**アミダテントウ**（阿弥陀天道，テントウムシ科）もシャーレに入れてもってこられたのを観察しました．



[redacted]

ヤママユの繭の抜け殻 アミダテントウ　　木の葉を入れた大きな透明容器の中の，ハート模様を背中につけた**エサキモンキツノカメムシ**（江崎紋黄角亀虫，ツノカメムシ科），**オオツノカメムシ**（大角亀虫，ツノカメムシ科）および成虫越冬の**キボシカミキリ**（黄星髪切，カミキリムシ科）を観察しました．また，葉からぶら下がった**アサギマダラ**（浅葱斑，マダラチョウ科）**のさなぎ**も観察しました．緑色の表面に金ぴかの点々が下の方についていました．威嚇のためだろうということでした．幼虫越冬して４月にさなぎになったものです．キジョラン（鬼女蘭，ガガイモ科）を食べて大きくなったそうです．

エサキモンキツノカメムシ オオツノカメムシ キボシカミキリ アサギマダラのさなぎ　傘をさして里山の家を出発して，大坂池の南西にある背の低いマサキ（正木，ニシキギ科）の葉を食べている**ミノウスバ**（蓑薄羽蛾，マダラガ科）の集団**の幼虫**を観察しました．既にかなりの葉が食べられて，一部は葉が穴あきになっていました．すぐ近くで，**イオウイロハシリグモ**（硫黄色走蜘蛛，ハシリグモ科）を高校生になった昆虫大好き少年が２匹捕獲しました．両方共，触覚が棍棒状でないので，雌という説明でした．

[redacted]

ミノウスバの幼虫 イオウイロハシリグモ　　大坂池の北側の土手で，**ハナモモ**（花桃，バラ科）を見ていた時に，ウグイス（鶯，ウグイス科）とカイツブリの鳴き声が聞こえました．山側の**コバノミツバツツジ**（小葉三葉躑躅，ツツジ科）が上品なピンク色の花をいっぱいつけていました．オタマジャクシ池で**シオカラ**（塩辛，トンボ科）**のヤゴ**（水?）と**アカガエル**（赤蛙，アカガエル科）**のオタマジャクシ**を捕獲して，プラスチック容器に入れて観察しました．濡れた路上で，ミミズ（蚯蚓，貧毛綱）がはっていて，これも容器を入れて観察しました．網の上のギンメッキゴミグモ（銀鍍金塵蜘蛛，コガネグモ科）を見つけて，写真に取ろうとしましたが，小さすぎて焦点をあわせるのが大変困難でした．

[redacted]

ハナモモ コバノミツバツツジ シオカラのヤゴとアカガエルのオタマジャクシ　　石段を登って，尾根まで行きました．広葉樹を切って，日当たりをよくして，赤松林に戻す工夫をしている場所でした．多くの**アカマツ**（赤松，マツ科）の１年～３年**の実生**がありました．**アラカシ**（粗樫，ブナ科）の4年もの**の幼木**もありました．赤松に接近している細い幹の**ザイフリボク**（采振り木，バラ科，別名：シデザクラ）を観察しました．白い花のつぼみが沢山ついていました．日本産のベリーという説明でした．周辺のネジキ（捩木，ツツジ科）が切られ，切られた所から細い枝が沢山でてい

ました.

[redacted]

アカマツの実生 アラカシの幼木 ザイフリボク　　キラニン広場に行き，赤松の雄花についた**ヤニサシガメ**（脂刺亀虫，サシガメ科）を観察しました．潜り込んでいて，写真を撮るのに苦労しました．モチツツジ（黐躑躅，ツツジ科）の花についた**ツツジトゲムネサルゾウムシ**（躑躅棘胸猿象虫，ゾウムシ科）を皆で観察しました．小さくてすばやく動くので，これも写真を撮るのに苦労しました．

[redacted]

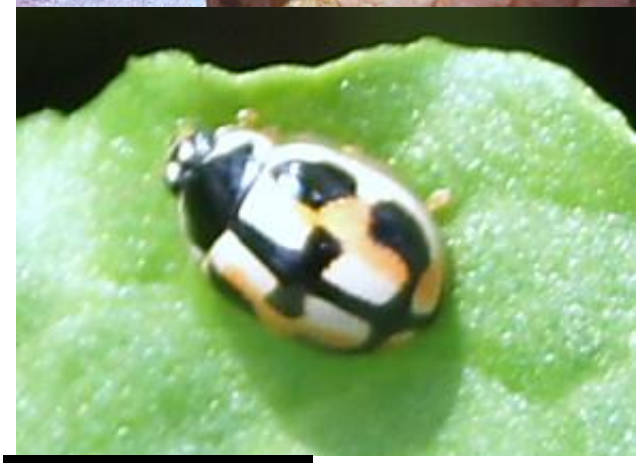
ヤニサシガメ ツツジトゲムネサルゾウムシ　　**キイロテントウ**（黄色天道，テントウムシ科）を見つけて，手のひらの上に載せて写真を撮りました．コナラ（木楢，ブナ科）の枝についたいた３㎝くらいの弱々しい**ナナフシ**（七節，ナナフシ科）を観察しました．直ぐに下に落ちてしまいました．アベマキ（楮，ブナ科）の枝についた**ヤママユの**２㎜大の５つ**の卵**を見つけました．「御覧（５卵）になって」という冗談を言った参加者がいました．このままでは，目立つので，持ち帰って孵化させるという参加者がいました．

[redacted]

キイロテントウ ナナフシ ヤママユの卵　　ガマズミ（莢迷，スイカズラ科）の葉の上でノミハムシ（蚤葉虫，ハムシ科）？をいくつか見つけました．瑠璃色の３㎜大の成虫でした．近くで**ビロードツリアブ**（天鵞絨吊虻，ツリアブ科）を見つけて写真を撮りました．その後，他の２ケ所でもビロードツリアブを見つけました．春の風物詩の１つです．

丁度，このときに日差しが照ってきました．カナヘビ（金蛇，カナヘビ科）を２匹捕まえた男の子がいました．ロープをはるための擬木の南側にスズバチの５㎝大の泥の巣がありました．**ヒメカメ**

ノコテントウ（姫亀子天道，テントウムシ科）をギシギシ（羊蹄，タデ科）の葉の上で２匹見つけました．モンシロチョウ（紋白蝶，シロチョウ科）がセイヨウタンポポ（西洋蒲公英，キク科）にとまったのを写真に撮りました．



[redacted]

ビロードツリアブ ヒメカメノコテントウ　　樹木の幹の低いところに，５～６㎝長のナメクジ（蛞蝓，ナメクジ科）が２匹並んでいました．最近のナメクジは外来種ということでした．小枝で男の子がつつくと白い液を出しました．炭焼広場の角にあった山桜は，濃いピンクの花をたくさん咲かせていました．その向いには白い花をつけた大きなオオシマザクラがありました．擬木の南側にナナホシテントウ（七星天道，テントウムシ科）の蛹や幼虫がいました．路上で，**オオスズメバチ**（大雀蜂，スズメバチ科）**の女王バチ**が死んでいるのを見つけました．越冬失敗のようでした．

オタマジャクシ池近くの柳にヤナギハムシ（柳葉虫，ハムシ科）がいるのを見つけました．近くに，**ツチイナゴ**（土稲子，イナゴ科）もいました．

[redacted]

オオスズメバチの女王バチ ツチイナゴ　　里山の家の中で，机を２つくっつけて感想会をしました．ヤママユの「卵」を「種」と言い間違えた人がいましたが，カイコの場合は卵を種ともいうそうで，言い間違いではないということになりました．いつもの女性参加者から，５弁の桜の花のクッキーが振る舞われました．合成着色料のようには発色はよくないですが，安全なのでベニコウジカビ（紅麹黴，モノアスカス科）の色素を使ったそうです．また，別の女性参加者からイタリアで買ってきたアーモンド（Almond扁桃，バラ科）の砂糖漬けも振る舞われました．多少，アーモンドは堅かったですがおいしいものでした．なごや生物多様性センターが出している機関誌「なごやの生物多様性」（No.4）に，いつも観察会に参加しているゾウムシを研究している人の論文が載ったというお知らせがありました．

「名古屋市を中心とした愛知県及び近隣県産ゾウムシ類のDNAバーコーディング」

【外部リンク】名古屋市を中心とした愛知県及び近隣県産ゾウムシ類のDNAバーコーディング

菜種梅雨があがって良かったという感想が出ました．長靴を履いて，小雨の中を快適に歩いた春の観察会になりました．

観察項目：ヤママユの繭の抜け殻と卵，クヌギ，アミダテントウ，エサキモンキツノカメムシ，オオツノカメムシ，キボシカミキリ，アサギマダラのさなぎ，マサキ，ミノウスバの幼虫，イオウイロハシリグモ，ハナモモ，ウグイスとカイツブリの鳴き声，コバノミツバツツジ，シオカラのヤゴ，アカガエルのオタマジャクシ，ミミズ，ギンメッキゴミグモ，アカマツ，アラカシ，ザイフリボク，ネジキ，ヤニサシガメ，モチツツジ，ツツジトゲムネサルゾウムシ，キイロテントウ，コナラ，ナナフシ，アベマキ，ヤママユの卵，ガマズミ，ノミハムシ？，ビロードツリアブ，カナヘビ，ヒメカメノコテントウ，ギシギシ，モンシロチョウ，セイヨウタンポポ，ナメクジ，オオシマザクラ，ソメイヨシノ，オオスズメバチの女王バチの死骸，ヤナギハムシ，ツチイナゴ

文・写真：伊藤義人 監修：瀧川正子